第１学年　　学級活動学習指導案

平成２７年１０月２３日（金）　　　指導者　（Ｔ１）担任　（Ｔ２）栄養教諭

１　題材名　　「たべもののひみつをしろう」

２　目標

　○　食べ物の名前を知ることで食べ物に興味をもち，好き嫌いなく食べようとする意欲をもつことができる。　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（関心･意欲･態度）

　○　好き嫌いなく食べることの大切さを知り，自分の食べ方を振り返ることができる。

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（思考･判断･実践）

　○　食べ物の３つの働きを知り，好き嫌いなく食べることが大切であることを理解することができる。　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　 （知識･理解）

３　食育の視点　文部科学省「今後の学校における食育の在り方について」（平成25年12月）より

①食事の重要性（食事の重要性・食事の喜び・楽しさを理解する。）

②心身の健康（心身の成長や健康の保持増進の上で望ましい栄養や食事のとり方を理解し，自ら管理していく能力を身に付ける。）

③食品を選択する能力（正しい知識・情報に基づいて，食物の品質及び安全性等について自ら判断できる能力を身に付ける。）

４　指導計画

事前　「好きな食べ物嫌いな食べ物アンケート」をする。

本時　「たべもののひみつをしろう」

給食にはたくさんの食品が使われていることを知り，食品が働きごとに３つの仲間に分かれることが分かる。

事後　「給食の中の食べ物探し」をする。

継続的に「給食がんばりカード」に取り組む。

５　指導上の立場

(1)　題材について

本題材は，学習指導要領特別活動編の内容「食育の観点を踏まえた学校給食と望ましい食習慣の形成」より設定したものである。

心身共に健康な体を作るためには，好き嫌いなくなんでも食べることが大切である。しかし，味や見た目，食経験の少なさから好き嫌いや食べず嫌いをする児童がいる。好き嫌いをしてはいけないことは分かっているが，なぜそれがいけないのか，好き嫌いをしていると体にどんな影響があるのかなどを理解している児童は少ない。

食べ物を身近に感じ，いろいろな料理を食べてみたい，どんな味か知りたいなどの思いをもつことは，食べ物に対する関心を高め，“食べてみよう”とする態度の形成につながっていくことであると考える。また，食品の働きを知ることで，色々な食べ物を食べようとする意識が高まるのではないかと考えた。本題材を通して，「食べ物に興味や親しみを感じること」「好き嫌いなく食べようとすること」の２点を育てたいと思い，この題材を設定した。

そこで，全員が同じものを食べる給食を活用して，学習を進めていくことにした。給食で登場する食品の名前や形を知らせ，食べ物に興味をもたせたい。また，給食にはたくさんの食品が使われていることを知り，食品の果たす役割や栄養について興味関心をもつようにつなげていきたい。

(2)児童の実態

本学級の児童は給食を楽しみにしており，給食をよく食べ，残菜も少ない。給食の

あいさつの前には献立や食べ方の話を聞くことを楽しみにしている。しかし，家庭で食べたことのない料理や見た目が自分の好みでない料理は，食べる前から配膳量を少なくする児童もいる。また，嫌いなものでも頑張って食べてみようという児童は少ない。事前にとった好きな食べ物嫌いな食べ物に関するアンケート結果では，好きな食べ物は，ケーキやラーメンなどが多く，嫌いな食べ物は，たけのこやピーマン，エビやイカなどの野菜や魚介類に偏っていた。また，食べたことのない食べ物については貝類や海藻類が多いという結果が出た。つまり，野菜や魚介類は，児童にとって苦手意識が高かったり，経験不足から敬遠されがちだったりする食べ物であることが分かった。そこで，食べ物について知ったり，関わったりする活動を取り入れることで，食べ物に関心や親しみをもつことができるようにしたい。さらに，食品の働きについて知ることで，いろんな食べ物を食べようという思いをもつことができるようにしたい。

(3)研究とのかかわり

本校の研究主題「学校・家庭・地域の連携を深め，共に学ぶ私たちの食と健康」に迫るために，低学年の食に関する指導の目標「食べ物に興味・関心をもつ子ども」に重点を置き，食育の視点を次のようにとらえ，手立てを考えた。

①食事の重要性…食品や料理に興味をもち，食事を楽しむ。

②心身の健康…いろいろな食品に親しみをもち，嫌いなものでも食べようという意

欲をもつ。

③食品を選択する力…身近な食品の名前や，食品が働きごとに３つの仲間に分類できることが分かる。

＜食生活アンケートの活用＞

好きな食べ物嫌いな食べ物に関するアンケート結果を知り，食生活を振り返る場面を作ることにより，児童が自分の問題として興味をもって考えることができるようにする。

　　＜栄養教諭との連携＞

栄養教諭から専門性を生かした食に関する話を聞くことで，食品や給食への興味関心を高めるようにする。さらに，実際に調理に携わっている栄養教諭が鍋の中で食品のカードを混ぜ，それが給食のメニューになって提示されることで，たくさんの食品と給食が結びつくようにする。また，食品の働きについて教わることで，好き嫌いなく食べることの重要性に気付き，苦手なものでも食べようとする態度を育てたい。

＜食べ物に親しむ工夫＞

「食べ物クイズ」をするときに，手で触る，香りを嗅ぐ，振った時の音を聞く，拡大した写真を見るなど，様々な感覚を使って食品に親しむことができるようにする。また，食品を３つの働き別の仲間に分類する活動では，なるべく実物を使用することにより，実物に触れる経験を設けるようにする。アンケートの結果から，野菜や魚介類など苦手な食品をクイズなどで取り上げることで，興味や親しみをもてるようにしていきたい。

　　＜家庭との連携＞

　　　　学習したことを学年便りで知らせたり，学校で取り組んだ「給食がんばりカード」を家庭の中でも話題にしたりすることにより，家庭と学校で食の学びを共有することができるようにする。

６　本時案

|  |  |
| --- | --- |
| 目　標 | 「食べ物クイズ」を通して，食べ物に親しみをもつとともに，食べ物は働きによって３つに分かれることを知り，好き嫌いなく食べようとする意欲をもつことができる。 |
| 学習活動 | 指導上の支援と工夫 |
| １　本時のめあてを知る。たべもののひみつをしろう。２　食べ物クイズをする。３　栄養教諭の話を聞く。４　食品を３つの栄養素の仲間に分ける。５　答え合わせをする。６　本時のまとめをする。 | ○　栄養教諭と共に「食べ物クイズ」をすることを知らせ，楽しく学習する意欲をもつことができるようにする。（Ｔ１）○　事前に実施した好きな食べ物嫌いな食べ物のアンケートの結果に触れながら話をすることで，本時のめあてをつかむことができるようにする。○　触る，香りを嗅ぐ，写真を見るなどして，様々な感覚を使ったクイズをすることで，食品に興味をもって学習することができるようにする。（Ｔ１，Ｔ２）○　事前アンケートの結果から，児童の苦手な食品や，触れることの少ない食品を取り上げることで，親しみや興味をもつことができるようにする。○　下線がクイズで取り上げる食品である。ごはん，牛乳・・・・・・・米・牛乳　　　　八宝菜・・・いか・えび・うずら卵・豚肉・にんじん・しいたけ・たけのこ・白菜ねぎ・玉ねぎさつまいもの中華あえ・・・さつまいも・大豆・ごまみかん・・・うんしゅうみかんえのきたけのみそ汁・・・わかめ・みそ・玉ねぎ・えのきたけ・ねぎ・（にんじん）○　クイズで登場しなかった食品については，意図的に３つの仲間に分けて掲示するようにする。（Ｔ２）○　食べ物は，赤・黄・緑の「３つのなかま」に分けられることを知らせる。働きについては，言葉だけでなくイラストで示し，より理解しやすいように配慮する。　　黄…ちからになる　　赤…血や肉，骨をつくる　　緑…体の調子を整える○　話し合いながら取り組むことができるように，グループで取り組むようにする。実物や写真を用意することで，手元で操作しながら考えることができるようにする。○　考えるヒントになるように，色別のかごにそれぞれの働きのイラストを貼り付けておくようにする。○　机間指導し，うまく分けられないグループには，３つの働きから想像して分けたり，Ｔ２が例示した食品から連想して分けたりするよう，助言する。○　栄養教諭が正解を示す際に，３つの色は食品の働きによって分けられるということを，もう一度押さえるようにする。（Ｔ２）○　黒板に貼られた食品は，給食に使われている物であることを知らせることで，給食にはたくさんの食品が使われていることに気付くことができるようにする。（Ｔ２）○　献立を写真で示すことで，児童が具体的に給食をイメージできるようにする。（Ｔ２）○　給食には３つの働きをもつ食品がすべて使われていることに気付き，残さず食べることが大切だということを押さえる。（Ｔ１）○　今日の学習の感想や分かったことを発表することで，本時のまとめとする。（Ｔ1）　・食べ物には，３つのなかまがあることが分かりました。　・３つの仲間は，全部体にいいから，残さず食べるようにします。 |
| 評価の観点 | 「食べ物クイズ」を通して，食べ物に親しみをもつとともに，食べ物は働きによって３つに分かれることを知り，好き嫌いなく食べようとする意欲をもつことができたか。【意欲・関心】　　　　　　　　　（発言・観察） |